

自己評価表

愛媛県立小松高等学校

(平成30年度)

11

教育方針	国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国際社会に寄与する、徳・知・体の調和の取れたたくましく生きる人間を育成する。	重点目標	1 誠実で礼節を重んじ、活力に富む健全な心身を養う。 2 学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を養う。 3 一人一人の個性を伸ばし、豊かな感性や創造力を養う。 4 広い視野で、生涯学習社会を生き抜く自己教育力を養う。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	平日に一定時間机に向かう習慣が定着するよう、各教科で課題の出し方について研究・工夫し、1日120分以上の家庭学習時間を目指す。	C	考査発表期間の全校平均学習時間は約2時間あるが、平日は1時間程度で目標に届かなかった。	課題の与え方を各教科で研究・工夫するとともに、各HR・学年で学習や進路に対する意識を高めるよう努力したい。
	教科指導力の充実	教科内及び教科間の情報交換や研究を継続・発展させ、授業の満足度や学習意欲を高め、教員の授業力向上に活用する。	A	生徒による授業評価アンケートの全教科平均は、1・2学期とも4.6(5点満点中)と高評価であった。	教科内及び教科間の情報交換や研究を継続・発展させ、生徒の満足度をさらに高めたい。
		1年間を通じた計画的な研修となるよう、教科会や学年会とも連携し授業力を高める。	B	全教科グループ、全学年での研究授業、授業研究会は計画通りに達成できた。6月が学校訪問研修のため、相互参観授業週間は11月の1回のみ実施した。教科会、学年会での情報交換は活発に行われている。	研究授業や相互参観授業週間で、年間4回程度以上授業を参観し研修を深め、教科会や学年会などの反省も踏まえて授業力向上に努めたい。
	資格取得の奨励	各種検定の1級合格者延べ50人以上を目標に個別指導等を徹底し、取得奨励に努める。	B	被服・食物検定47名、商業各種検定20名が1級に合格した。個別指導の時間はあまり確保できなかった。	家庭科関係は、1級取得への意識をさらに高め、合格者を増やしたい。商業科関係は、補習や個別指導により3種目1級取得者を増やし、併せて、全体では3種目3級、2種目2級以上取得を目標にしたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の変化の兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導と家庭との連携によって、全校出席率98%以上を維持する。	A	年間出席率は98.7%で目標を達成できている。	長期欠席等の兆候を早めに把握できるよう、家庭との連携をさらに強化したい。
		5分前登校指導を徹底し、遅刻ゼロの日60日以上を目指す。	A	遅刻ゼロの日62日。生徒の多様化に伴い一部遅刻が多い生徒がいるが、ほとんどの生徒が5分前登校できている。	遅刻を繰り返す生徒について理解を深め、個に合わせた指導を学年団・担任を中心に行っていきたい。
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間3回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。	A	年間3回の面接週間を持った。学年団を中心として、担任が適時・適切に生徒に向き合い、生徒理解に努めることができた。	次年度についても、担任・学年団を中心として現状維持に努め、より生徒との関わりを深めていきたい。
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化について主体的・積極的に取り組む態度と奉仕の心を育てる。	B	平日の清掃時間は、主体性に欠けている所が見られたのが残念であった。休業日のトイレ清掃は、積極的に良かった。	活動開始5分前の呼びかけや、開始・終了時の点呼など、清掃時間一杯活動できる工夫をし、生徒・教職員とも環境美化に対する意識を高めたい。
	ルール厳守とマナー向上	街頭交通指導の回数を増やし、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行い、ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。	B	ヘルメットの着用や交通マナーの悪さに対する指摘は減ってきているが、ゼロではない。	継続して、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を粘り強く行いたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	個に応じた進路保障	早期から進路意識を高める機会を充実させ、多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーションなど）に対応した計画的な進路指導により、希望進路達成率100%を目指す。	B	小論文や面接の個別指導などを行い、成果をあげている。進学決定率98.3%、就職決定率100.0%である。	「総合的な探究の時間」における探究活動学習でプレゼンテーション能力を養うとともに、小論文指導や面接指導もより充実させていきたい。
	進路指導力の向上	早期から計画的な進路指導を行い、多くの教員が業者や大学等の説明会などに参加し、職員会議等での報告会を実施して、情報を学校全体で共有する。	B	今年度より校務系ネットワークのメッセージ機能を利用し、進路状況や模試分析等の報告を実施することができた。	メッセージ機能を職員会などでも利用して、さらに情報共有に努めたい。探究活動学習で、複数の班を担当することにより、教員の指導力向上も図りたい。
	キャリア教育の推進	インターンシップの事前指導や取組を活かし、生徒が自ら考え、行動する力を育てる。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など職業理解の機会を増やす。	C	インターンシップについては、将来の職業と結びついたものではなく、安易に企業を選んでいる傾向が見られる。次年度に向けて検討していく必要がある。	求人をしていただいている企業と連携をとったり、将来の進路希望に照らし合わせた職種を選ばせたりするなど、より有意義なインターンシップの実施方法を検討したい。
特別活動	部活動の充実	各部活動において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合体育大会において、100人以上の参加を目指す。	C	計画的で充実した指導については、概ね達成できた。しかし、3年間継続については、転退部者が現在9名となっており、少なくない。県総体出場生徒数はあとわずかであった。	年間活動計画表・休養日予定表・活動実績表・実績報告書・活動状況表を作成、提出し活動の充実を図る。県総体は団体種目の出場を一つ増やしたい。
		各部活動において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭において、4つ以上の部と50人以上の参加を目指す。	D	計画的で充実した指導については、概ね達成できた。しかし、3年間継続については、転退部者が現在5名となっており、少なくない。県高文祭出場生徒数は15名であり目標を大幅に下回った。	年間活動計画表・休養日予定表・活動実績表・実績報告書・活動状況表を作成、提出し活動の充実を図る。県高文祭出場生徒の数値目標は現実の生徒数を考慮し20名に変更し、目標達成を目指したい。
	生徒会活動・家庭クラブ活動 委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月1回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。	B	生徒会活動は、形骸化している部分もあるが、概ね達成できた。家庭クラブ活動は、毎月実施の1円募金とペットボトルのキャップ回収はできた。	生徒会活動は、役員の人数が多すぎるので、来年度から規定内に戻したい。家庭クラブ活動は、毎月の活動以外に、講習会の実施等活性化に努めたい。
	自主的な奉仕活動	年間5回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高める。	A	生徒へ各種ボランティア活動の案内を積極的に行った。献血活動に貢献し感謝された。西日本豪雨で被災した大洲市にボランティア活動に出向いた部もあった。	さらに、生徒への各種ボランティア活動案内に力を入れ、生徒全体の参加意識を高めることを図りたい。
同 人 権 ・ 教 育	人権・同和問題学習 の積極的推進	人権・同和教育ホームルーム活動に加え、人権委員による校内研修会や現地研修会などを実施し、生徒に主体的に人権問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。	B	障がい者施設との交流や人権劇の観覧、新規の人権作文の発表など、地域の啓発活動に積極的に参加することで生徒の人権意識を高めることができた。	人権委員会の活動内容を、人権・同和教育ホームルーム事前研修会などで担任に紹介し、ホームルーム活動に生かしていけるようにしたい。
広 報 ・ 地 域 協 働	地域に開かれた 学校づくりの推進	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で必要情報を伝え、ホームページでよりタイムリーな情報発信を行い、親しみやすく開かれた学校づくりに努める。	B	情報モラルに配慮しつつ、ホームページでタイムリーな情報発信を行った。「ライフデザインだより」の発行や、五百亀記念館や小松公民館での作品展示で地域へアピールした。	ホームページは、各種行事や大会の事後報告だけではなく、事前のPRにも有効に活用し、より親しみやすい学校づくりを目指したい。
	地域に根ざした特色ある 学校づくりの推進	P T A・同窓会や地域の諸団体の協力を仰ぎながら、地域人材を活用した体験授業や竹林整備等の体験学習を実施し、特色ある学校づくりに努める。	B	P T A・同窓会との連携は良好であった。ものづくりマイスターやフラワーデザイナー、福祉関連職員など地域人材を活用した授業により専門性を高め、地域に開かれた特色ある学校づくりに努めることができた。	地域人材から学んだことをインターンシップなどで地域に還元できるような取組を行いたい。「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」でも地域人材を活用し、問題発見・解決できる生徒を育成したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。